

今はじめれば未来が変わる。みんなの活動を紹介します。

県内各地で環境活動の芽が出てふくらんでいます。あなたも積極的に参加してみませんか。毎年恒例の行事もあるので、ぜひ来年は参加してみてくださいね。

01 「第1回あおもり環境演劇コンテスト」が開催されました。



平川市立竹館小学校



野辺地町立馬門小学校



青森市立佃中学校



弘前市立北辰中学校

11月17日、青森市民文化ホールにて第1回あおもり環境演劇コンテストが開催されました。このコンテストでは、次代を担う子どもたちが身近な環境問題に関心を持ち、循環型社会の基本となる「もったいない」の心が育まれることを期待し、今年度初めて開催されました。

コンテストには、県内の小・中・高校から6つのチームが出場し、ごみの減量、リサイクルの推進、ポイ捨て防止、地球温暖化防止など環境をテーマにした「環境演劇」を上演しました。

最初は、平川市立竹館小学校で、地球温暖化防止に焦点を当てながら、一人ひとりが「私にできること」を考え、実践することの大切さを切実に訴えました。

続いて野辺地町立馬門小学校が、私たちの誇りである陸奥湾と烏帽子岳の恵みを永遠に引き継いでいくための誓いをテーマに、総合的な学習で学んだ「むつ湾と烏帽子岳の恵みや環境問題」を結びつけた劇を演じました。

3番手は青森市立佃中学校。地球温暖化について、中学生らしい発想を生かしたストーリーを展開し、同じ世代の人たちを中心に環境について深く考えてもらえるよう訴えました。

続いて登場した弘前市立北辰中学校が表現したことは、現代人が忘れてきている「心の所在」。劇中の歌や衣装にも力が入っていました。

5番手は私立柴田女子高等学校。環境を破壊することには大きな影響を与える人間、しかし、環境を守り、再生するには偉大な人間。その人間として、私たちに何ができるのか考えたとき、微力ではあっても身の回りから始めなければならないということを訴える内容でした。

最後は青森県立青森南高等学校。人間の善に対する概念は、人間の世界だけで完結してはいけません。これからは、地球環境にあるすべてのものに「善」の思いを広げていかなければならないという自分たちの思いを表現した内容でした。

どのチームもオリジナリティあふれるストーリー展開、衣装、舞台美術で観客を楽しませてくれました。コンテストの審査結果は次の通りです。

- 最優秀賞：青森南高等学校
- 優秀賞：柴田女子高等学校、佃中学校、竹館小学校
- 審査員特別賞：北辰中学校、馬門小学校

終了後、審査委員長より、芝居も環境活動も同じものはない、みんな違って当たり前だがその中でどうやって地球を守っていくかという思いを共有することが大切とお話がありました。本当にそうですね。学校での問題が毎日のように取り沙汰されているこの頃ですが、環境を大切にしていこうと人々の命の大切さも学んでほしいとのことでした。もったいない精神を忘れず、割り箸を使わない、水を大事に使うなど、ひとり一人が一つずつでも続けていけば大きな力になりますね。来年はさらに多くの学校の応募を期待しています。



柴田女子高等学校



青森県立青森南高等学校

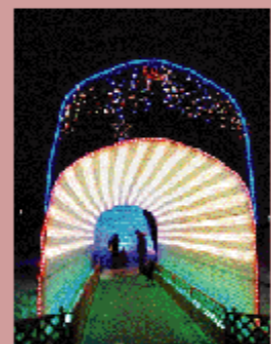


アトラクションとして出場した八戸市環境政策課のエコレンジャーのメンバーとともにあおもりの環境を守っていくことを誓いました。

02 三沢市にペットボトルツリーが出現!

三沢市の商店街に市職員が製作したペットボトルのクリスマスツリーが出現しました。このツリーは昨年6月から市職員有志が製作したもので市内で回収された約5万本のペットボトルが使用されています。12月1日の点灯式から約

1ヶ月間、ライトアップされました。ツリーの設置場所にはペットボトルのトンネルも作られ、子どもたちが目を輝かせて「きれいだね!」を連発していました。リサイクルの大切さを身をもって感じてもらえたようです。



03 沈みゆく南太平洋の島、「ツバル」を支援するNGOの遠藤秀一さんの講演がありました。

11月8日、海拔1メートルの南太平洋に浮かぶ国、ツバルを支援するNGOの遠藤秀一さんが十和田市民大学講座にて講演され、市民約六十人が講演に耳を傾けました。ツバルは地球温暖化の影響による海面上昇で国土が沈んでしまうことが懸念されています。

12月はツバルの雨季に当たり、特に水没の被害が集中する時期で多くの世帯が床上浸水に見舞われるそうです。

私たちがふだん何気なくもらっているレジ袋1枚をつくるには、60wの電球を1時間つけたのと同じエネルギーが使用されるそうです。また、ペットボトル入りのミネラルウォーターで、ヨーロッパ産のものが私たちの口に入るまでには、採水するための石油エネルギー、熱を加えての殺菌処理、日本までの輸送、コンビニの24時間冷蔵保存、家庭の冷蔵庫での冷却と二酸化炭素を排出し続けているのが現実です。私たちはペットボトル1本を購入することでそうしたエネルギーを消費しているということに気付かされました。

ペットボトルでなくても、また外国産で



なくとも大量生産、大量消費される商品には同じことがいえます。ものを「作る」「運ぶ」「売る」という過程ではCO2の発生は免れないのです。そのためできるだけ不要なものを買わないということを遠藤さんは訴えます。一人ひとりが水筒を持つような時代になれば企業は変わっていく、そうして私たち一般人は環境負荷の少ないライフスタイルを選択することで企業にメッセージを送りつづけることが大切だということでした。

遠藤さんが見せてくれたツバルの風景には輝く太陽よりも輝いている本当に楽しそうな子どもたちの笑顔があふ



会場では上十三地区の青森県地球温暖化防止活動推進員による地球温暖化シミュレーション体験機器などの説明がありました。

れていました。私たちができるだけ必要のないものを買わない生活を送るなど、身近なところから行動を起こし、地球温暖化防止につなげれば、ツバルの人たちの笑顔に近づくことができるのです。高度経済成長の中ですり込まれてきた大量生産、大量消費の暮らしを見直すことを実践してほしいとのことでした。

ものを買うときにまず「これは必要なものか」と一考してみる、もしくは「今あるものは使えないか」とちょっと置いてみる。そうした小さな積み重ねがツバルを救うことにつながるのです! とのお話でした。

04 環境マイスター活躍中! 「未来への贈り物」

県では、環境保全活動や環境教育の指導者として活動する、環境マイスターを認定しています。今回は、環境マイスターの一人、新井田壽弘さん(五戸町)の活動を紹介します。

五戸町の自然をまるごと体験し、身近な環境問題に親子で取り組んでもらおうと平成18年8月から3回にわたって「ふるさと環境・自然ふれあい講座」が開催されました。

この講座の共通テーマは「親子で参加し自然と食文化を通じて環境問題を考える」こと。青森県総合社会教育センターのモデル学習開発総合事業の協力を得て開催しました。

講座は、青森県ふるさと森と川と海保全地域にもなっている、五戸町倉石中地区にある五戸川親水公園などで開催され、8月27日には、「水と仲良くなる」をテーマに五戸川でカヌー体験を、10月21日には「自然からの恵みに感謝」をテーマに、屋外で



のかまど作り、自然の素材を使った昔ながらの遊びを体験しました。

また、11月23日には「野鳥に出会えるかな」をテーマに、前日に飛来したばかりの白鳥の観察と、郷土料理「ひつつみ」と「なべっこだんご」作りを体験しました。

それぞれの体験では、参加者全員に主役となって楽しく参加してもらうため、スタッフは自然観察指導員、社会教育主事、青森ふるさと環境守人、五戸町体育指導員、パークボランティア、アースレンジャー(青森県地球温暖化防止活動推進員)、環境マイスターなど、たくさんのスタッフの協力が体制がありました。

どの回でも、体験を通して感じて欲しいことは「地域の環境」の素晴らしさに触れ、環境を守っていくことの大切さと、地球温暖化防止をはじめとした環境問題について考えてもらうことです。

講座では、燃やした火と二酸化炭素(CO2)、地球温暖化との関係、環境保全、食文化と環境問題など広範囲な話題も多くありました。ノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんが提唱する「もったいない」の精神を忘れずに、自然の中で、見たり、触ったり、味わったりしながらの体験活動でした。

環境マイスターの新井田壽弘さんからひとこと。「できることから取り組み、実行することが持続可能な環境共生への第一歩。その大切な第一歩に気付くことが未来への贈り物になるかもしれません。」



これまでに認定した環境マイスターをホームページで紹介していますので、こちらをご利用下さい。
<http://www.pref.aomori.lg.jp/kankyo/econavi/guide/meister/top.html>